

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

『対馬の古墳』

対馬にある遺跡のうち8割が墓地です。亡くなった人を取めるのは、板のような石を組んで作った石棺です。海岸にあるような丸い石の上に積み上げた積石塚と呼ばれるものもあります。一般に古墳と聞いて思い浮かべるような、土を盛り上げて高い丘を作ったものはわずかです。

今回はその数少ない盛土で墳丘を作った古墳を紹介します。一番古いものは美津島町の雞知にある出居塚古墳です。4世紀の後半頃に造られたと考えられている前方後方墳です。この後に造られたのが、雞知浦に突き出した岬にある根曾古墳群です。6つのうち1号墳と2号墳が前方後円墳という形の古墳で、ほかは円墳だろうと言われています。6世紀に造られました。7世紀になると、出居塚古墳の南西約500mにサイノヤマ古

墳が造られます。この雞知で4世紀以降に造られてきた古墳群は、当時の大和政権に繋がりの深い、対馬を代表する豪族である対馬下県直一族に連なる人たちのお墓と推測されます。667年には美津島町の黒瀬に金田城が造られますが、築城を取り仕切ったのは、その一族ではなかったでしょう。

サイノヤマ古墳の少し後には、厳原町佐須の下原に矢立山古墳群が造られています。佐須は天武天皇の時代に日本で初めて銀が採れた土地で、後にはさらに金が採れたという事で西暦701年には大宝という元号が付けられました(ただし後に金が採れたというの報告した人物の詐欺だということが分かりました)。ここに埋葬されたのは銀山の開発に貢献した下県直(ここに埋葬されたのは銀山の開発に貢献した下県直)に関する深い人物達でしょう。

一方、同じ厳原町の豆殿には少し前に保床山古墳が造ら

対馬市教育委員会 文化財課
☎0920(54)2341

れました。豆殿では亀の甲羅を使って吉兆を占う、亀卜という神事が今もおこなわれていますが、保床山古墳にはこうした卜占神事の当事者が葬られている可能性があります。かつては対馬から10人が壱岐や伊豆とともに朝廷の卜部に登用されています。

あまり知られていませんが、対馬の古墳は、東、西、南のどれも、日本史の重要な話題に深い関わりを持っているのです。



矢立山1号墳

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●本を濡らさないように注意しましょう。

まだまだ暑い日が続きます。暑い日には、冷たい飲み物をバッグに入れてお出かけ…、そんな人も多いのではないのでしょうか。

冷たい水筒やペットボトルの表面についた水滴で、図書を濡らしてしまう方が時々いらっしゃいます。弁償しなくてはならないケースもありますので、ご注意ください。

9月の休館日

休館日						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

今月のおすすめ新着本

一般書	『ミツカン社員のお酢定食』 ミツカン/監修 味のバリエーションが豊富なお酢定食1か月分を紹介する、ミツカンのメニュー開発チームによる献立集。	『カメの飼ひ方・楽しみ方BOOK』 富沢 直人/著 飼育容器や水槽などのセッティング、エサの与え方から、休眠のさせ方、病気の対応などの健康管理まで、美しい写真や楽しいマンガで解説。	『ルーズヴェルト・ゲーム』 池井戸 潤/著 監督に見捨てられ、主力選手をも失ったかつての名門・青島製作所野球部。廃部か存続か。繁栄か衰退か。人生を賭した男達の戦いが始まる…。
	『ハッピーノート』 草野 たき/著 学校でも塾でも、思うように自分を出せずにいる6年生の聡子。本当の気持ちは言えないまま。そんな小学生の日常をみずみずしく描く。	『港で働く人たち』 大浦 佳代/著 漁師、魚市場職員、船舶機器整備士、コンテナターミナルプランナー、運用管制官など、港で働くいろいろな職種を紹介。港の現場としくみ、実際に働く人たちのインタビューも掲載する。	絵本『こんぶのぶーさん』 岡田 よしたか/著 漫才師をめざす、こんぶのぶーさん。相方のオーディションを開くが、なかなかピツクリの相手が見つからず…。「ちくわのわーさん」「うどんのうーやん」に続くナンセンス・ユーモア絵本第3弾。

青年部活動に参加して

(一部省略)

対馬市商工会青年部 三浦征剛



皆さんが商工会青年部に入ったきっかけは何ですか?『誘われたけんがなんとなく:』とか『先代が入ったけんが:』とか、そういった理由が多いかと思えます。もちろんそれが悪いといっているわけではありません。ただ、私が商工会青年部に出会ったきっかけから入部に至るまで、それはまさに、私の人生を変えるものだったのです。

私は地元の対馬高校を卒業後、『働くら東京したい!』と勢いで東京の企業に就職をしました。人口4万人弱の対馬から人口1000万人以上の大都会東京。しかし、この環境の変化になかなかついていけず、将来のビジョンも描けぬまま、22歳の春、逃げるように対馬に帰ってきました。

そのまま数ヶ月、特にやりたい事も無く、日々をダラダラ過ごしておりましたところ、とある先輩から、『なんか働いとかな格好悪かるうもん!俺が知り合いの居酒屋を紹介してやるけん、バイトでもせんか!』と半ば強引にアルバイトを進められました。正直なところ、面倒くさいな〜などと思っていたのですが、断る理由が特に無く、アルバイトを始めてみる事となったのです。

ある日、その居酒屋の閉店時間になろうかとする時でした。店のオーナーが10数名程の団体を引き連れて店にやってきました。『おい、こいつ達になんかメシ作ってやってくれ!』

その団体は商工会青年部でした。そして私を雇って下さった居酒屋のオーナーは商工会青年部の部長をしていたのです。青年部部长であるオーナーと、青年部員達の、深夜まで行われる飲みながらの話し合い。『今度の祭りはどうする?』とか『どげんかして対馬を盛り上げないかんばい!』とか。その光景は、私にとつて、とても新鮮なものでした。『こんな人たちは政治家でも無いのに、なんで必死に地域の事を考えよっちゃやろうか?』と、青年部に次第に興味を持つようになったのです。

イヤイヤながらやっていたアルバイトも、毎晩の様にやってくる青年部のおかげで、楽しく、真剣に仕事に打ち込めるようになっていきました。やがて私はその店の正社員となり、2年目、3年目と年を重ね、そして青年部員の活躍を身近に眺めながら、働くことの意味や、地域に貢献することの素晴らしさを学んできました。そういつた中で、私の心に、いつしかひとつの想いが芽生えました。『将来は店をやりたい!そして経営者として商工会青年部の仲間になりたい!』と思うようになったのです。

そして様々なきっかけや出会いが重なり、30歳の春、独立を決めました。不安や恐怖にさいなまれた独立・開業も、商工会・青年部員のみながたくさんの助言とご支援を下さり、なんとか軌道に乗せる事ができました。もうすぐ開業して10年が経ちますが、オーナーとの出会い、そして青年部との出会いは、ダ

メ人間だった私の生き方を、正しい道に導いてくれたのです。

それからというもの、他の部員のみならず笑顔や感動を共有しながら、青年部活動に全力で取り組んできました。そして、気がつけば今年で10年が経ち、あつという間に現役としては最後の年になりました。これまで、どれだけ地域振興に貢献してきたか、自分自身で評価する事は出来ませんが、対馬が大好きだから、愛しているから、精一杯頑張ってきた!という自負はあるつもりです。反面、家業がおろそかになってしまう事もしばしばでした。妻と二人でやっていた小さい店でしたので、青年部活動の為に店を休んでしまつと、生活に影響が出てしまいます。商売と青年部活動の両立に悩み、青年部を止めようと思つた事もありました。しかし、青年部の仲間たちは『無理して活動に出らんでいいけん!仕事は優先やけん!』と気遣っていただき、さらには懇談会や打ち上げ等で私の店を良く利用してくれました。これだけの温情をかけて下さつての仲間たちがいる中、このままではダメだ、と思い、従業員・アルバイトを雇い入れ、出来るだけ活動に参加していこうと決心しました。

人は一人では生きていけません。そして商売も一人ではやっていけません。そういった事を青年部活動の中で知りました。私は青年部という素晴らしい仲間を得たことにより、思いやり、絆、いつくしみ、こういった言葉を深く理解することが出来たのです。

このように、私は青年部に入部したことで、人生や商売にとつて素晴らしい経験をしました。そしてそれを、もつともつと若い経営者に体験して欲しいのですが、そもそも、この若い経営者という人材が対馬にはあまり居ない様に感じます。その理由は、地方自治体が直面している問題、過疎に伴う人口の減少、そして少子高齢化では無いでしょうか?

『仕事が無い』この一言で対馬を去っていく若者を何十人と私は見てきました。これからの未来、我々、地方の商工会青年部が地域振興、まちづくりに携わっていく身として、考えていかなければいけないのは、人口流出の食い止めと、若手人材の育成だと思えます。このままでは、いずれ地域全体の体力が無くなり、我々商工会青年部も衰退の一途を辿って行くかもしれません。

対馬という辺境の島に暮らしていく中で、今、私が考えているのは、たとえば島内に眠っている才能溢れた若手人材を発掘し、独立を支援したり、また島外で頑張っている対馬出身者、彼らに対馬にUターンしてもらい、対馬で起業させてしまえばよいと思つています。

当然、様々なリスクがあるのは承知しております。責任も伴うでしょう。しかし、我々には商工会という組織のバックアップがあります。税務・金融・販路開拓支援など、経営に携わる様々な相談ができる窓口を持っているのです。それらをフルに活用して、我々、青年部員で若者の独立を支援していく、こういった事を青年部員のみならずこれから考えてはどうでしょうか?才能溢れる若い市民を起業させ、青年部にも入部してもらい、地域振興・まちづくりに貢献してもらおう、これを進めていけば、対馬の素晴らしい未来がひらけると思つたのです!

最後になりますが、冒頭でもお話しした通り、私は若い頃、将来のビジョンなど何も無い人間でしたが、青年部と出会い、独立を決心したからこそ今があります。そろそろ、その恩返しをしなればと考えています。難しいことはできませんが、若い新入部員をもつともつと増やす努力をしたいと思えます。そして青年部のみならず私の店に連れてきて、従業員にこう言いたいと思つています。

『おい!青年部つれてきたけん、なんかメシ作ってやってくれ!』